

☆みつけ☆ <http://www.mitsuke.or.jp/>

商工会通信 2012年5月



商工会総代会の開催について

本年度の見附商工会総代会を下記により開催いたします。総代の方には別途ご案内をお送りしております。ご出席についてよろしくお願いいたします。

開催日 平成24年5月16日(水)
15:00~

会場 総代会：見附商工会3階研修室

見附商工会健康診断のご案内

見附商工会では、第2回集団定期健診を、別紙のとおり6月28日(木)に開催いたします。

場所は見附市中央公民館になります。

便利で受診料特典のある、集団検診事業をご利用下さい。

『商工貯蓄共済』に加入すると受診料が更にお得になります。



5月・6月の無料法律相談

法律問題でお困りの方、商工会の無料法律相談を利用してみませんか。

5月15日(火) AM10:00~正午

6月7日(木) AM10:00~正午

会場：見附商工会

女性部広報紙について

女性部よってけてエのチラシを今月から商工会通信と一緒に会員の皆様にお届けいたします。

ご覧いただきたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

「マイナス金利」制度の申込受付開始について

県では、中小企業等の設備投資や雇用確保を促進するため、「マイナス金利」制度を今年度も引き続き実施することとし、以下の通り助成金の申込受付を行います。

1、円高対策設備投資緊急促進事業

厳しい経営環境の中で事業拡大や新分野進出等に取り組む県内中小企業者等の設備投資を支援するための助成金。

- (1) 日 時 平成24年4月18日(水)から
- (2) 申 込 先 (財)にいがた産業創造機構(NICO)
- (3) 申 込 方 法 申込書類の持参または郵送・宅配等による送付
- (4) 受付予算額 10億円

2、新成長設備投資促進事業

「健康・福祉・医療」、「新エネルギー」、「観光」等、新たな成長が期待される分野における企業等の設備投資を支援するための助成金。

- (1) 日 時 平成24年4月18日(水)から6月29日(金)まで
- (2) 申 込 先 (財)にいがた産業創造機構(NICO)
- (3) 申 込 方 法 申込書類の持参または郵送・宅配等による送付
- (4) 受付予算額 5億円

高校生の部活動に思いを寄せて

2009年、42年ぶりにスポーツの祭典、新潟国体が成功裏に幕を閉じた。そして今年の夏は、インターハイ(高校総体)が新潟県を中心に北信越地域であり、いわゆる「高校日本一」を決める大会である。

さまざまな競技の高校生アスリートが、一堂に会して日本一を争っている。私自身も高校時代を振り返ってみると、古臭い言葉ではあるが「汗と涙」が結集した高校時代の良き思い出であり、青春の1ページだったような気がします。

しかし、高校生の部活動の中でも高校野球に目を向けると、同じ部活動ではあるがインターハイとは別で唯一日本高野連が単独で主催をしている。昨年は日大三校が4090校の頂点に立ったわけだが、高校野球は、甲子園で行われる全国大会が全試合テレビで生中継されるという、あらゆる学生スポーツの中でも別格の扱いを受けているように思うが、加盟校数でいくと一番大きな大会ではないのである。

高校生の競技で、4000校を超える競技は他にもたくさんあることをご存じでしょうか。どの競技も最初に各地区大会があって、そこを勝ち抜いて全国大会に出ることができ日本一を争う。

その中でも、2011年の球技に目を向けると右表のような状態である。

4000校を超えるほど普及しているスポーツであれば、全国優勝するのは容易なことではなく、高校日本一となるまでには時に語り継がれるべき名勝負が繰り広げられています。だがそれが全国的に報道されることはまずないし、甲子園で優勝したチームのように多くの称賛をあげることもない。

夏の高校スポーツにおいて、メディア露出でも観客動員でも野球だけがなぜこれほどまでスバ抜けているのか。確かに「野球」というスポーツが国民的に愛されているということは言うまでもないが、高校野球の場合、強豪校といわれる学校でも戦後は連覇した例がほとんどなく、毎年優勝校が変わって「どこが勝つかわからない」ということではないでしょうか。

一方その他の競技に目を向けてみると、同じ学校の連覇が目立つ。たとえば卓球男子の場合、青森山田が7年連続14回目の優勝を飾っている、(女子も四天王寺が17度目の優勝)

私の長男が高校時代にバトミントン部に所属していたが、よくこんなことを言っていた「高校生レベルのバトミントンは強豪校に勝つことはまず無理!」「試合をする前から勝負は決まっている」親からしたら「それでいいの?」と思ってしまうところもあるが、これは考え方から指導者側に原因があるのかなと思うところもあり、競技性そのものにもどんなに頑張っても太刀打ちできないところがあるらしい。

高校生の部活動は、勝ち負けは別であくまで教育の一環であるという大前提があるにせよ、もう少しメディアで取り上げて良いのではないかと思う。

それぞれの競技でも青春の「汗と涙」の物語は同じである。高校生の祭典インターハイをもっと地域で盛り上げていこうではありませんか。

競技		加盟数	優勝校	地区	回数
バスケットボール	男	4553	延岡学園	宮崎	3年ぶり(3)
	女	4064	金沢総合	神奈川	13年ぶり(3)
サッカー	男	4185	桐蔭学園	神奈川	初優勝
野球	男	4090	日大三	西東京	10年ぶり(2)
バレーボール	男	3034	創造学園	長野	初優勝
	女	4159	東九州龍谷	大分	2年ぶり(5)
卓球	男	4265	青森山田	青森	7年連続(14)
	女	3258	四天王寺	大阪	3年ぶり(17)
バトミントン	男	3566	埼玉栄	埼玉	7年連続(8)
	女	3845	青森山田	青森	2年ぶり(8)
テニス	男	3031	四日市工	三重	初優勝
	女	2798	富士見丘	東京	2年連続(8)
ソフトテニス	男	2713	東北	宮城	7年ぶり(2)
	女	2911	広島翔洋	広島	2年連続(16)
ハンドボール	男	1246	小林秀峰	宮崎	初優勝
	女	951	華陵	山口	初優勝
ソフトボール	男	352	大村工	長崎	初優勝
	女	1575	厚木商	神奈川	6年ぶり(6)
ホッケー	男	108	横田	島根	3年ぶり(5)
	女	93	岐阜各務野	岐阜	2年連続(23)

Number Web より